

2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年2月14日

上場会社名 株式会社エコノス 上場取引所 札  
 コード番号 3136 URL https://www.eco-nos.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 勝也  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 新行内 宏之 (TEL) 011-875-1996  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の業績 (2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	2,982	5.8	124	184.7	94	—	74	89.6
2021年3月期第3四半期	2,818	—	43	—	7	—	39	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2022年3月期第3四半期	57.95		57.65					
2021年3月期第3四半期	32.84		32.06					

(注) 当社は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

(注2) 当社は、2020年3月期第3四半期は連結業績を開示しておりましたが、2021年3月期第1四半期において連結子会社を有しないこととなったため、2021年3月期第1四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、2021年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	2,998	465	15.5
2021年3月期	2,831	373	13.2

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 465百万円 2021年3月期 373百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	0.00	—		
2022年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の業績予想 (2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,931	4.0	136	155.7	95	—	76	47.0	58.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注2) 当社は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しております。この影響により、本業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2022年3月期3Q	1,313,898株	2021年3月期	1,283,898株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2022年3月期3Q	289株	2021年3月期	289株
------------	------	----------	------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2022年3月期3Q	1,287,645株	2021年3月期3Q	1,198,198株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	8
(収益認識関係)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第3四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、2021年9月までは新型コロナウイルス感染症の新たな変異株による感染者の増加傾向が続き低調に推移しましたが、その後、ワクチン接種が進んだことにより、新規の感染者は減少傾向に転じ、当第3四半期会計期間においては回復傾向となりました。また、北海道においても、新型コロナウイルス感染症拡大によって、緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点措置の適用が繰り返されたことで、9月までは外出自粛による個人消費の冷え込みが続きましたが、当第3四半期会計期間においては回復の兆しが見える状況となりました。

ただし、更なる変異株が発生したことにより、今後は再拡大の懸念もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような経営環境の中で、当社においては巣ごもり消費に強い業態において前事業年度に引き続き売上高が好調に推移しました。さらに当第3四半期会計期間においては新型コロナウイルス感染症拡大の影響で落ち込んでいたオフハウス業態においても回復の兆しが見られました。また、引き続きインターネット販売の強化とコストコントロールの徹底に努めたことにより、前年度の第3四半期累計期間を大きく上回る収益を確保することができました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高2,982,784千円（前年同期比105.8%）、営業利益124,045千円（前年同期比284.7%）、経常利益94,530千円（前年同期比1,215.2%）、四半期純利益74,623千円（前年同期比189.6%）となりました。

セグメントごとの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (リユース事業)

リユース事業におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言等に対応し、2021年5月16日から7月11日及び8月27日から9月30日までの長期間にわたり一部の店舗で営業時間の短縮措置をとりましたが、巣ごもり消費に強いホビー関連・オーディオ・楽器・本などの売上が前事業年度に引き続き好調に推移しました。さらに、インターネット販売を継続して強化しました。また、当第3四半期会計期間においては新型コロナウイルス感染症の影響が減少したことにより、全ての業態で前事業年度の売上高を上回り、当期間の既存店舗の売上高は前年同期比107.1%となりました。これらにより、当四半期累計期間の当事業の売上高は好調に推移し、既存店舗の売上高は前年同期比106.3%となりました。また、リユース品の買取についても好調に推移し、前年同期比110.5%となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績につきましては、売上高2,954,177千円（前年同期比106.2%）、セグメント利益は278,401千円（前年同期比112.7%）となりました。

当第3四半期会計期間末現在におけるリユース事業の各業態別の店舗数は以下のとおりであります。

(単位：店)

	ブックオフ 事業部	ハードオフ事業部				ハードオフ 事業部計	合計
		ハードオフ	オフハウス	ホビーオフ	ガレージ オフ		
店舗数	17	15	17	16	1	49	66

(注) ブックオフ事業部の店舗数にはインターネット販売の1店舗を含みます。

(その他)

本セグメントは報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業とiCracked Storeの運営を通じてiPhoneの修理等のサービスを行うリペア事業を含んでおりましたが、リペア事業については、iCracked Store 1店舗を2021年7月15日に他社へ移管したことにより本事業から撤退いたしました。また、2021年6月よりグリーン住宅ポイントの商品交換事業を開始し、本セグメントに計上しています。

以上により本セグメントの当第3四半期累計期間の業績は売上高28,606千円（前年同期比79.6%）、セグメント利益20,606千円（前年同期はセグメント損失22,244千円）となりました。

新型コロナウイルス感染症は次々と発生する変異株による拡大の懸念があり、引き続き、店舗の清掃及び消毒の徹底、レジカウンター前のビニールシート設置による飛沫感染リスクの低減、ソーシャルディスタンスの確保、出勤時の検温実施等による従業員の健康管理にも注意することで、お客様に安心して足を運んでいただけるような店舗運営に努めてまいります。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は、1,886,436千円となり、前事業年度末と比べて213,489千円の増加となりました。これは、主にグリーン住宅ポイントの商品交換事業等による売掛金の増加183,593千円、商品の増加54,954千円及び現金及び預金の減少21,829千円によるものです。

また、当第3四半期会計期間末における固定資産は、1,111,688千円となり、前事業年度末と比べて46,619千円の減少となりました。これは、主に有形固定資産の減少49,480千円によるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は、1,138,950千円となり、前事業年度末と比べて142,889千円の増加となりました。これは、主に短期借入金の増加101,000千円及び賞与引当金の増加27,898千円によるものです。

また、当第3四半期会計期間末における固定負債は、1,394,037千円となり、前事業年度末と比べて67,390千円の減少となりました。これは、主にリース債務の減少31,352千円及び長期借入金の減少28,887千円によるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、465,136千円となり、前事業年度末と比べて91,371千円の増加となりました。これは、主に四半期純利益74,623千円と新株予約権の行使による資本金及び資本準備金の増加16,902千円によるものです。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の業績予想につきましては、2021年5月14日に公表いたしました2022年3月期の業績予想を修正しております。詳細につきましては、2022年2月14日公表の「2022年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	697,871	676,041
売掛金	114,355	297,948
商品	796,167	851,122
未収入金	10,024	2,337
前払費用	50,523	49,559
未収還付法人税等	3,788	-
その他	216	9,426
流動資産合計	1,672,946	1,886,436
固定資産		
有形固定資産		
リース資産	371,912	344,134
その他	381,072	359,370
有形固定資産合計	752,985	703,504
無形固定資産		
	1,380	1,380
投資その他の資産		
敷金	283,598	283,260
その他	120,342	123,542
投資その他の資産合計	403,941	406,802
固定資産合計	1,158,307	1,111,688
資産合計	2,831,254	2,998,125
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	8,846	15,273
短期借入金	450,000	551,000
1年内返済予定の長期借入金	288,813	282,747
未払金	54,081	66,371
リース債務	39,503	41,467
未払費用	68,028	72,609
未払法人税等	16,629	25,813
未払消費税等	58,788	34,610
ポイント引当金	3,978	2,780
店舗閉鎖損失引当金	1,120	-
賞与引当金	-	27,898
その他	6,270	18,377
流動負債合計	996,061	1,138,950
固定負債		
長期借入金	735,138	706,250
リース債務	519,360	488,007
長期末払金	40,514	35,457
退職給付引当金	58,516	58,776
資産除去債務	104,818	102,862
その他	3,079	2,682
固定負債合計	1,461,427	1,394,037
負債合計	2,457,489	2,532,988

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	326,579	335,030
資本剰余金	274,906	283,357
利益剰余金	△232,605	△160,203
自己株式	△164	△164
株主資本合計	368,717	458,021
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,615	7,115
評価・換算差額等合計	4,615	7,115
新株予約権	432	-
純資産合計	373,764	465,136
負債純資産合計	2,831,254	2,998,125

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	2,818,521	2,982,784
売上原価	907,810	949,905
売上総利益	1,910,711	2,032,878
販売費及び一般管理費	1,867,135	1,908,833
営業利益	43,575	124,045
営業外収益		
受取配当金	854	677
受取手数料	6,449	5,673
協賛金収入	376	361
預り金失効益	-	4,000
その他	7,463	8,444
営業外収益合計	15,143	19,157
営業外費用		
支払利息	50,197	48,157
その他	742	514
営業外費用合計	50,939	48,671
経常利益	7,779	94,530
特別利益		
新株予約権戻入益	-	360
関係会社株式売却益	34,383	-
特別利益合計	34,383	360
特別損失		
減損損失	13,288	-
店舗閉鎖損失引当金繰入額	2,520	-
投資有価証券評価損	-	2,801
特別損失合計	15,808	2,801
税引前四半期純利益	26,354	92,089
法人税、住民税及び事業税	3,256	19,311
法人税等調整額	△16,255	△1,844
法人税等合計	△12,999	17,466
四半期純利益	39,353	74,623

### (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

#### 1. 配当金支払額

該当事項はありません。

#### 2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

#### 3. 株主資本の金額の著しい変動

当第3四半期累計期間において、新株予約権の行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ105,590千円増加しております。この結果、当第3四半期会計期間末において、資本金が326,579千円、資本剰余金が274,906千円となっております。

当第3四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

#### 1. 配当金支払額

該当事項はありません。

#### 2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

#### 3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、商品販売時に顧客に付与しておりましたポイントにつきまして、従来は、付与したポイントの利用に備えるため、将来利用されると見込まれる額をポイント引当金として計上し、ポイント引当金繰入額を販売費及び一般管理費として計上しておりましたが、付与したポイントを履行義務として識別し、将来の失効見込み等を考慮して算定された独立販売価格を基礎として取引価格の配分を行う方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は3,731千円減少し、営業利益及び経常利益はそれぞれ73千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は2,221千円減少しております。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期累計期間にかかる顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

前事業年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した、新型コロナウイルス感染症による当事業への影響に関する仮定について重要な変更はありません。

ただし、収束時期の遅延など新型コロナウイルス感染症の状況や経済への影響が変化した場合には、今後の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりです。

当第3四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

財又はサービスの種類別の内訳

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	リユース 事業	計		
ブックオフ	864,850	864,850	-	864,850
ハードオフ	597,638	597,638	-	597,638
オフハウス	863,079	863,079	-	863,079
ホビーオフ	489,375	489,375	-	489,375
ガレージオフ	21,006	21,006	-	21,006
ロジスティクス事業	57,889	57,889	-	57,889
3R事業	60,338	60,338	-	60,338
その他	-	-	25,939	25,939
顧客との契約から生じる収益	2,954,177	2,954,177	25,939	2,980,116
その他の収益	-	-	2,667	2,667
外部顧客への売上高	2,954,177	2,954,177	28,606	2,982,784

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業、2021年7月に終了したリペア事業、2021年6月より開始したグリーン住宅ポイントの商品交換事業等を含んでおります。

(セグメント情報等)

前第3四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	リユース 事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	2,782,588	2,782,588	35,933	2,818,521	-	2,818,521
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	2,782,588	2,782,588	35,933	2,818,521	-	2,818,521
セグメント利益 又は損失(△)	247,126	247,126	△22,244	224,882	△181,306	43,575

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及びリペア事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△181,306千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに属しない管理部門に係る一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「その他」に含まれるリペア事業において、店舗の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては13,288千円であります。

当第3四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	リユース 事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	2,954,177	2,954,177	28,606	2,982,784	-	2,982,784
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	2,954,177	2,954,177	28,606	2,982,784	-	2,982,784
セグメント利益	278,401	278,401	20,606	299,007	△174,961	124,045

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業、2021年7月に終了したリペア事業、2021年6月より開始したグリーン住宅ポイントの商品交換事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△174,961千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに属しない管理部門に係る一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益の算定方法を同様に変更しております。

この結果、当第3四半期累計期間において、四半期財務諸表に与える影響は軽微であります。